

報龍屋新聞



〒299-2854
千葉県原野川市
代(TEL) 623
04-7092-9912

報龍屋新聞社
振替口座
00160-1-11979
(郵便代カネハシ)

E-x-il
maotomo@
island.dti.
me.jp

カラ塾H.P.
http://user.
ecc.u-tokyo.
ac.jp/~c
0806071

かこ屋出前教室

日どりが確定

9月23日

赤いチャニヤニコの

踊るカゴ屋 東京宇大橋南

山口県周防大島文化交流

センターの学芸員・高木春輝

岩国市広瀬の曲家藤井正

朗の両氏のお饗立てによるカゴ

編み教室と申す。こんな時間帯

もかければ、本音がでるだろう。

買物がこの美しいのも編もうか

由布市の曲家園にて、でカゴ

修理としよう。

1/3 宮崎県諸塚村上塚原神社

の祭礼で奉納竹細工。村崎

條ニヒキイロ猿曳きの前座

もつとめる。同行支援者と

して、カラマンの共川健一、ホムヘーヒト

カラ塾編集長、橋元大作、他の名

がっらぬらしている。帰路、日向市在住

の成合宅でタビの総仕上げ。バービー

同氏は市内屈指のタフシードライバー

であり、ラニホー。心酔者であり、元三。

年々の旨だる、アメリカンボーカルの必奉

者である。

1/26 ~ 28 千葉県流山市の真澄

屋でカゴ編みとする。

あなたか作る竹細工 →



共川健一 編集長



こんなもの
編んで買物
に出かけよう。

平島掘削工事始め 10月9日 於 GALA(梅丘) 講師 大越 刈谷
加藤 佐藤
今石 才

お3回「南島学ライブトーク」

大旅団が平島を初のぞき
旅団員によるトーク、
ショーである。七十名の
平島の日常が若い
感性にどう響いたか、
映像とふんばんに使え
のショーである。(注)
メンバー全員が都市
生活経験者であるが、
もはや都市の眼だけで
は、どうやらはいかに
島と都市との物の差は
みえぬ。では、ピンに
同定、比定のポイントが
あるのだろうか。時間
を掘削するには、どの
ようにしたか、よいか。
皆平島に試されたのである。

「たぐら
の食材
イセエビ
キン
キニキ
ホタテ
カンパチ
カツオ
カサゴ



燕川 健一 PHOTO

(注)ピエリだけ若くないのが混った。
ネこのため。
カゴシ
屋久の種
稲
奄美
トーク・ショーの双血リ上が染くみ
であるが、それ以上に熱帯を帯びるの
が、交差点での発言のような気が
する。アルコールの効能は狂気にま
ごも人を高みに押し上げるから。
団員は各々が遠く離れて暮ら
しているから、集えるのが何人になるか。

2010.8.25
8.29

鹿屋島県
十島村

内容はたえず島と
見ぶるし、島民
は首筋とのけど
らせて船と空を
E見上げる。
ハニ舟による上陸
は水平移動で
あつたが、接岸
流がきこから、
聖直移動に変る。
それが人の感性にい
う写し出されるのか、今後のことである。



トカラノ 敦生 動向

- 10/9 「平島掘削工事始め」 刈谷 他
- 10/10 庭先仕事レポート 燕川 他
- 1月 平島海中2人間 曲島 他
- 2月 大江戸の肥やし(会津中) 堀元 他
- 5 南島学エッセイ版 2010年7号 堀元 他
- 恩義は暴力が(稲垣尚友)
- 大根が降る(尚友さん) 須詩(船木栞生)
- 民主運動としての「こいぬ」(園車登電)
- 橋元健一



のぞき窓

4/26 ホン、ひと足先に夕日に染ま

6/19 浜山市の田東寺で「語り」

7/9 東京ビザサイトの国際ブック

ニアアで社主が赤いハンカチ

でカゴ編みの晒し着を着た

7/24 梅ヶ丘の「A」で「岩本社会

学」のライブトーク(目録)聴

8/10 1. ホニを書き「のオーストリアを踏み出す

ホニの娘ら合せて大人二人が秩父

のタカオの家に集まってくれる。新聞社

側からオオガイサフが押しかける。「目録

自然鱗母パンと「にたまみやけに

もらう。まずは資料のエッセイから

とリかき。「オム」部族「逆流」

など。日記も借りる。

8/10 ホム、ヘーミ、「トカラ」の執筆者

のひとりでもある舟木栂生氏も合

流して、笠岡の芳山邸でビールを

暑気払い。羽田、鶴の連徒の

ビール会。(鹿屋在住の柳田が空港

8/24 羽田から鹿屋島へ飛ぶ。に迎える

午後五時過ぎ、天文館で元平島

教諭に話して聞く。福元先生と西

先生。聞き手は二人。大政刈谷

マシミ、ミギワ、若郎オオ。後飲み会

8/24 午後七時五分、フェリーとして

鹿屋島港へ乗って平島へ。

8/28 台風に北上中で定期船が欠航

8/29 下り便で奄美大島に向う。途中

の空港地スワセ島ではナンダイ子

ラーがに会う。ラーは屋久島へ出

かけていて合えない。山尾三右衛門没十

年の果に行っていた。ホニと語

る。空島では牧口光彦にミナト

で会えた。

名刺は古き昔のあまみ登の森本

慎一郎と元漁師でイトマン漁民の

伝承者・親里清孝の両氏に会う。四年ぶり

一行五名と合せて七名で飲む。オオコシ

はすでに空路帰途についていた。

8/30 朝八時過ぎに鹿屋島新港に着く。

車で代行車で四名は帰路に。オオヒリ

この小半世紀で移動手段が一変した。歩行

に頼ることもなく、夜行列車もなく、貨物船へ

の便乗もない。ニクちゃんである。

8/31 午前、橋元宅と出て、天文館の茶店で本

と聞く。日コロバリーゼーションの四氏

その後、県立図書館に行くも、成る者が

先には。曲川陣昭氏と、ブラリスでコビー

の毛。別れてから、高見馬場の銭湯に

つかる。ミハコ内で満悦。汗がふま出

ないうち山谷行き、路面電車に飛び乗

宿の橋元健朗、順子宅へ帰る。健朗は

伏替エネルヤ、研究のオオノ者、鹿大在

職中の風力発電等の研究で一歩向、デン

マークに行き、一八四三年に平島に流

9/2 種子島で高橋操平衛の墓を見

島人